

第 83 回メーデー中央大会

連合東北ブロック代表アピール

連合東北ブロック連絡会 代表幹事 砂金 文昭 (連合岩手会長)

中央メーデーに連合東北ブロック代表としてお招きいただき、被災地からの報告の機会を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

甚大な被害から 1 年が過ぎ、わたしたちは今やっと前に向かって歩き出そうとしています。家族や友を失い住み慣れた故郷を奪われながらも、失われた時間と生活を取り戻すため夢中になって駆け抜けた 1 年でした。

変わり果てた街にもう一度夢を描くことはたやすいことではありません。何度も絶望に襲われながら、「授かった命」「生かされていること責任」を胸に、亡くなった人の分までもと必死に歩んでまいりました。

これまでもそうでしたが、今この時間もわたしたちは全国全世界の多くの皆さんに支えられながら生きています。命の光をともしていただいた義援金、命をつないだ救援物資、勇気をいただいた皆さんの温かい激励訪問や激励の言葉の数々。そして、わたしたちに前に向かって歩き出す決心を与えてくださった様々なボランティア活動。震災以来わたしたちは、ずうっと『心の絆』を感じてきました。ありがとうございました。

被災地東北は、新しい街づくりをどう進めるか、人々の生業をどう再生するか、住民一丸となつて話し合いを進めています。国の支援や NPO など全国連帯のおかげで、ライフラインは整い、仮設住宅での暮らしは少々不自由さはあっても「生活の基盤」となっています。町をうずめていた災害廃棄物は多くが仮置き場へ運ばれ、わずかに残った未撤去の構造物や建物が震災の傷あとを思い起こさせます。しかし、何もなくなった町で景色を見ていると、まだこれから途方もない長い時間がかかるような気がしてなりません。土台だけ残った土地、地盤が下がって波をかぶる道路や水田、破壊の爪痕がなまなましい防潮堤、ねじまがったガードレールや橋の欄干。時折悪臭を放つ仮置き場の「がれき」、持ち主が見つからない被災車両、走ることを忘れた線路。福島を中心とした高い放射線量の地域、全国に散らばった家族や友人。風評の心配が絶えない農産物水産物。計画を推進するための専門的知識を持った人の確保、またそのために要する時間。被災地は、いま復興を着実に進めるためのいくつもの試練とたたかっています。そして、脳裏をよぎる家族との懐かしい思い出に涙をこらえながら、でも励ましあって暮らしています。

どうか皆さん、そんなわたしたち東北をどうか引き続き支えてください。「がんばろう日本」「つながろう日本」の言葉通り、がんばれば必ず町が元通りになる、がんばれば普通の暮らしを取り戻せる、そう信じて暮らしているわたしたちです。日本がひとつになり、がんばることで訪れるであろう幸せを信じながら、東北は歩み続けます。ふらっと遊びに来てください。おいしい食べ物もいっぱいあります。みなさんの町に住む東北からの避難者をよろしく願います。故郷を想い故郷のために頑張っている子どもたちを応援してください。がんばろう日本、よみがえれ故郷。どうかわたしたちのことを記憶のどこかで覚えていて下さい。これが一番の願いです。ありがとうございました。